

II. 科学リテラシーとメディア (8月8日)

テレビによる教育の変遷と教育テレビ番組のウェブ活用

現代社会学部 小田 茂一

講義概要

上記表題で午前の講義を受け持った。こどもとメディアを語るとき、テレビ視聴についての視点は欠かせない。1日2時間程度の視聴で、1年では730時間分の情報をテレビから得ていることになり、小学校高学年での年間授業時間708時間をゆうに超えている。その影響力は小さくないはずである。その際に視聴する番組が、どんな内容であるのかということは、きわめて大きな要素である。

昭和50年代に私自身が携わってきた「教師の時間・幼児の教育」など、他の人はどのように教えているかを伝えるための番組制作体験をふまえながら、NHK教育テレビの歴史を振り返り、現行番組ではどんな番組がこどもたちに人気なのかを確認し、現在進められるウェブ上での「デジタル教材」画面を見ながら実際のコンテンツについて紹介した。

こどもを取り巻く番組の実態

公共放送の根幹は「教育と報道」とされるが、教育テレビの変遷と現在を、こどもへのメディア、そしてそこに介在する教師に向けてのメディアという角度から見ていった。

かつては、教育番組の専門チャンネルとして、日本教育テレビ（通称：NET、現在のテレビ朝日）や日本科学技術振興財団が母体となった東京12チャンネル（現在のテレビ東京）が設立されたが、いずれも失敗に終わった（教育番組を50%以上、教養番組を30%以上放送することといった条件）。そんななか、4～6歳児の視聴率高位10番組のうち、ほぼ半数がアニメという現状がある。（平成17年6月「幼児視聴率調査」放送研究と調査2005/10）。そして7歳以上に対しての視聴率調査においても、NHK教育テレビでよく見られる上位番組にはアニメがあげられた。（表・1 平成16年6月NHK全国個人視聴率調査）

表-1

●NHK教育テレビでよく見られている番組（放送時間10分以上）

曜日	放送時間	番組名	視聴率
木	後6:10	☆アニメ・忍たま乱太郎	2.8%
木	後6:00	☆アニメ・おじや丸	2.7
水	後6:20	☆天才てれびくんMAX	2.6
金	後6:20	天才てれびくん	2.0
水	後5:50	☆クイズナント	2.0
火	前8:00	☆にほんごであそぼ	1.9
水	前8:10	☆にんぎょあそび	1.9
水	後5:40	☆にほんごであそぼ	1.8
月	前8:30	聴察の園芸	1.6
木	後6:00	アニメ・カスミン	1.5

平成16年6月7日～13日全国7歳以上国民

有効数（率）2,607(72.4%)。

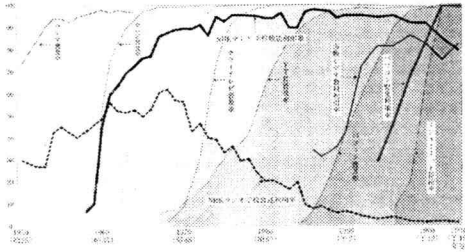
視聴率1%当たり約119万人

機材の進化で変わる視聴形態

教育テレビの開始から家庭用ビデオが広まるまでは、「定曜・定時」に放送される番組を、

その放送時間に視聴することは当然であった。いわゆる「ナマ・丸ごと・継続・一斉視聴」が放送教育発足当初よりの原則＝放送学習論とされていた。年間放送プログラムにあわせ、テレビティチャーという教室外の人が教室教師とは別の視点や方法で情報を提供する。そんな番組を、教室で子どもとともに視聴していた。しかし、そうした画一性への限界が、家庭用 VTR の

表-2 小学校におけるメディアの普及と利用の推移



デジタル時代の教育現場における
メディア利用と今後の展望

登場(表・2)で表面化し、ビデオ機材の利用による番組の素材化がはじまった。教師が学校放送番組のみならず一般番組をも事前に下見をして、自分の授業プランにあわせて取り入れることを可能としたのである。その結果、編集要素が加わり、発展学習も可能となり、「ナマ・丸ごと」視聴が崩壊し、子どもの反応を予想して選び抜き取られた質の高い素材による授業ができることとなり、教師のリテラシーも向上することとなった。選択・部分・繰り返し利用が可能になるという素材化の流れは、今日デジタル

化・ネット活用の時代に至り、放送局の側から体系的にネット上に用意されたものとなり、素材活用が一層容(放送研究と調査 2005年6月号)易になっている。

デジタル教材の現状

NHK デジタル教材の使い方については、NHK ホームページから入れるティーチャーズ ネット(www.nhk.or.jp/school)で説明している。具体的なデジタル教材としては、その先がけとして2001年に開発され、現在でも最も充実している番組サイト「お米」や、放送開始80周年のNHK 内での公募企画「南極放送局」関連番組の「南極」などがある。

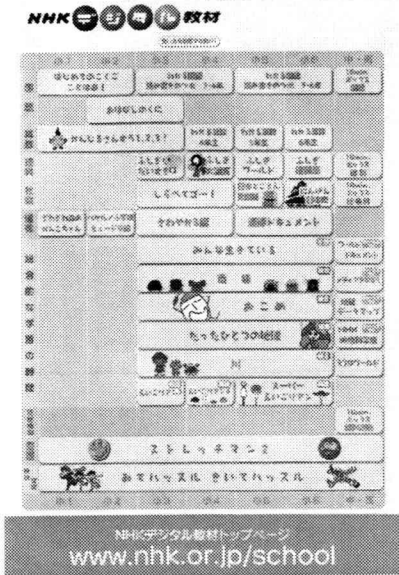


図-1

現在は、インターネット上で20シリーズ程度の番組が、放送と同じ内容により見ることができる(図・1)。その他に13番組で9千本のクリップ集があり、映像の百科事典といった様相を呈している。そして現在も増強途上であり、平成18年度の新番組もデジタル教材化を念頭に開発された。講義では、その8番組の内の5番組についてデジタル教材化の視点でふれた。インターネットで見られる動画クリップ、さらには、クイズなど双方向性、FAQ、掲示板、発表などを支援していく試みが、ウェブ上でのデジタル教材化を通しておこなわれている。最初に始まった「お米」を事例として、ネットにつないで実際に見ていった。この「お米」では、放送番組とそのクリップや番組あらすじなどの関連データを視聴したり、プリントアウトできるようになっている。「お米」をNHK 学校放送番組部で開発

した若手メンバーのひとは、現在は芸能番組ディレクターとなっているが、デジタル時代に向けて新しいことに教育という視点からトライする意欲と活気がこの時期の学校放送番組制作にとりわけ強く見られたように思える。

今後の展開として、デジタル教材をユビキタス (TV anytime) に利用できるようにするには、サーバー型放送サービスの活用が考えられる。番組とともにメタデータと呼ばれる情報を送出し、それによって番組録画や保存した番組の管理が容易におこなえ、テレビがパソコンのように扱えるようになるのである。しかし現状では、この新しいサービスの方向性は、はっきりと見えてきているとはいえない。